#213 ざっくり黙示録シリーズ 15　　2020.09.10

【第 7 の封印とラッパの裁き】～黙示録 8 章～　　東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞-----∞----

『ざっくり黙示録』がスタートしたのは昨年 4 月です。だから 1 年半経ったのですが、ようやく今日 8 章なんですね。今のペースだと、最後まで行くのにあと 3 年かかるんです。
それで、終わる前にイエス様が携挙される可能性があるという事で、それはそれで嬉しい。
今日は 8 章を半分ではなく全部やってしまいますので、どうぞお付き合い願いたいと思います。

昨年 6 月、私は西海岸をカリフォルニアからワシントン州まで縦断しました。
カリフォルニアには日本人がたくさん、こんなにたくさんいたのかというくらい多くの方が住んでおられて、日本語の聖書メッセージの集いという事もあり、大勢の方々が来てくださいました。
メッセージが終わってからのコーヒータイムで色々質疑応答があったのですが、その中にクリスチャンの弁護士さんがおられました。

アメリカは訴訟社会ですよね。すぐ訴える。だから、アメリカに住むなら、日本語が十分通じるような弁護士を持っている事が非常に頼もしいという事で、クリスチャン弁護士として大変に活躍されている方です。で、前々から法曹界の人に聞きたいと思っていた事を質問しました。

アメリカの刑事ドラマや法廷ドラマで必ず出て来る“司法取引”。
悪い奴に向かって、「巨悪の証拠を持って来てくれたら/証言してくれたら、お前の悪については訴追をやめて無罪にしてやるから/罰を軽―くしてやるから。」
悪い事をした奴がもっと悪い事の証拠を持って来たら、罰を与えないで無罪放免にしたるわという司法取引。これは捜査の効率を一気に上げる事はできるけど、正義と公正の実現を願うという観点で見ると、罪のやり得なんですよ。

先進国の中で、聖書の世界観が最も国中にみなぎっているというか、浸透しているのがアメリカですよ。
そのアメリカが世界で最初に司法取引を始め、今や横行しているわけですよね。
罪をやった奴が正当な刑罰を受けずに、巨悪を売り飛ばす事によってのうのうと生きる。
「聖書の世界観、つまり正義と公正を実現する事が浸透しているアメリカで、なんでこんな事が支持されるんですか？」

すると彼は「高原さん、それは違うよ。聖書の世界観があるから司法取引を認めたんだ。」
地上の裁判というのは所詮裁判ゲームの勝ち負け。
無罪になったからといって本当に無罪か。有罪になったからといって本当に悪かったのか。
その時に付いた弁護士の能力によって、白にも黒にもひっくり返る事は当たり前のようにある。

この世界の裁判の結果とは全く関係なしに、人は死後、必ず一人ひとりが神の前に立つ時が来る。
地上の裁判で見逃された悪も、死後の世界に行けば、最後の審判で神がその人を裁かれる。
司法取引で無罪になった人も裁きを免れた訳ではないのだ、という事を国民の一定数が支持しているので、司法取引が成立するんじゃないですかと。なるほどなあ！

この世界を見てると、正しいのに汚名を着せられたり、逆に悪を行っているのに立場が独裁者という事

で、誰にも咎められずにやりたい放題の限りを尽くしているのがいますよね。
そんな不公平をずっと見ていると、正直に生きる事がバカバカしくなるという事がありませんか？
真っ当に生きるのは損を被る事で、それは生きにくい生き方を選ぶ事になるのではないか。
しかし、私たちの人生が生きている間だけでおしまいなら不公平極まりないけど、聖書は死後の世界があるとはっきり語っているし、またこの世界は、やがて創造主の前に裁かれる日が来ます。

私は時々思うんですが、人間関係でもどちらが正しいかとか、どちらが損したか得したかという事でやると、すごくストレスになるんですね。
だけど、精神性でプラスかマイナスかという観点で見たらどうでしょう。品位・品格・人柄。

例えば、あなたが誰かに利用されて経済的損失を被ったとします。
気分悪いでしょ。踏みつけにされて。おとしめられて。
でも、あなたの徳/品位は全然マイナスになってない。おとしめた人がマイナスというか卑しいんですね。

神は人柄・人格をちゃーんとご覧になって。見るべき方はちゃんと見てくださっている。
これが、歪んだこの世の中で、正気を保って真っ当に生きて行くための秘訣ではないかと思います。
なんでそんな話から始めたかというと、今日の黙示録 8 章は天の法廷のような光景。
「神は地上の悪に対して必ず罰を下す」という事が見事に描かれている箇所なんですね。

今日のポイント 3 つを紹介しておきます。
1. 第 7 の封印は天の最高司令部法廷の光景。
2. 第 1 のラッパから第 4 のラッパの災害は一体どんなものか。
3. 今日の結論：神は全ての人が悔い改めて、神に立ち返るのを待っておられる。

まず復習というか、今からの説明に必要な黙示録の構造をおさらいしておきます。
やがて人類は 7 年間の患難時代に入ります。人類史上最も過酷な恐るべき時代。
7 年間のちょうど真ん中の 3 年半で構造がガラッと変わります。
“前半の前半”と“前半の後半”。そして“後半”。この 3 つで 7 年間の事を語っています。

“前半 3 年半の前半”は 7 つの封印で描かれています。
“前半 3 年半の後半”は 7 つのラッパで描かれています。
7 番目の封印が解かれると、7 つのラッパが出て来るんですね。
“後半”の 3 年半は 7 つの鉢で描かれています。
7 番目のラッパが吹き鳴らされると、7 つの鉢が出て来るんです。鉢が後半の 3 年半。

7 章までに第 1 から第 6 までの封印が開封されました。
第 1 の封印の開封で起こった事は反キリストの登場。
第 2 の封印の開封では第三次世界大戦。
第 3 の封印の開封では飢饉。小麦 1 マスが 1 万円くらいになる。
第 4 の封印の開封ではパンデミック。世界人口の 1/4 が消滅。
第 5 の封印の開封ではおびただしい数の殉教者たちの叫び。封印時代は人類史上最も多くの人間が殺される最低最悪の時代。
第 6 の封印の開封では天変地異。大地震や天の星が落ちる。

今日開く第 7 の封印では 7 つのラッパが登場します。

1. 第 7 の封印は天の最高司令部法廷の光景。
黙示録 8:1 子羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ほどの静けさがあった。

半時間だから 30 分くらい。第 7 の封印を開封したら何が起こるのか?! 初めに静けさがあった。

2001 年 21 世紀元年の 3 月に、日本全体が注目するような薬害裁判がありました。薬害エイズ裁判。
帝京大学副学長の安部英（あべ たけし/1916-2005）医師/教授は血友病の権威でした。
血友病は出血したら血が止まらなくなる病気です。血液の中に血を固める成分が欠損しているんですね。
血を固めるように薬があるのですが、それは人の血液で作ります。
しかし、HIV/エイズウイルスを持っている人の血液が提供される場合があって、その血液で作った薬を注入したらエイズウイルスに感染します。

そこで、血液の中に万一エイズウイルスがあったとしても、それを殺すために加熱して作るという方法があるんです。それを使う事によって安全なんですが、安部英さんは非加熱製剤といって、エイズウイルスを殺す過程を経ていない治療薬を打ち続けます。その間に発症する事があったのに打ち続けました。
なぜか？部下たちは「加熱製剤を使うべきではないでしょうか」と言うのですが、「そんな事言って、君大丈夫なの？」脅す。
この非加熱製剤を作っていたメーカーはミドリ十字。
ここから莫大な献金を貰っていた事が後に分かりましたよね。

この問題をずーっと追いかけていたジャーナリストに櫻井よしこという方がいます。
彼女は全ての薬害エイズ裁判を傍聴しました。いよいよ 2001 年 3 月 28 日に判決が出る。
マスコミが殺到しますが、彼女は中に入る事ができました。
裁判で、それまでも皆静かですよ。私語なんか誰もしない。でも、いよいよ裁判官が「判決」と言った時、本当に全ての音がストップしたみたいに静まり返った。空気が固まったというか。静まり返った。

そして判決。無罪です。その瞬間、法廷から何とも言えない呻き「うぅー」「なぜだ…」
というのは、遺族たちもみな傍聴している。
その時の様子は彼女の手記を読むと、自分がその法廷にいる錯覚を起こすような迫力のある描写でした。
これから重大な事が発表されるのが誰の目にも明らかな時、人は厳かな気持ちに打たれて沈黙します。

7 章以前に何が書いてあったかというと、実は天国は賑やかな所なんですね。
色んな礼拝者が神を賛美し、子羊イエス･キリストを礼拝している場面が続くのですが、その賛美・礼拝などのにぎにぎしい歌・音楽が全部ストップ。
いよいよ子羊が第 7 の封印を解いたという事は、これから 7 つのラッパの裁きが始まるという事です。

黙示録 8:2
それから私は、神の御前に立っている七人の御使いたちを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。

7 人の御使いが 1 人 1 つずつラッパを持っています。
後で読んで行くと分かりますが、ラッパを吹き鳴らすごとに、それぞれ個別の裁きが地上に下るのです。

そのラッパをいつでも吹く事ができる準備万端の御使いが 7 人。
彼らは神の御前に立っているので神のすぐ近くにいる。位の高い御使いであると思います。
彼らに七つのラッパが与えられた。ところが、すぐに吹かない。ここで不思議な事が起こるんですね。
黙示録 8:3
また、別の御使いが来て、金の香炉を持って祭壇のそばに立った。すると、たくさんの香が彼らに与えられた。すべての聖徒たちの祈りに添えて、御座の前にある金の祭壇の上で献げるためであった。

別の御使いが来て、という事は 8 番目の御使いです。
彼は金（きん）の入れ物を持っていて、その中にたくさんの香が入っていた。
そのたくさんの香に金の祭壇から取った火をくべると、香が煙になって上にたなびいて行くんですね。
これは祈りの象徴です。神がそれを聞かれる。

昔何人かの人たちを連れてイスラエル旅行をしたのですが、メンバーの 1 人が初めてのイスラエルで、ちょっとはしゃいでしまったんですね。イスラエルに初めて行く人、ムチャクチャはしゃぎますわ。
はしゃぎ過ぎて、最初に飛ばしすぎんねん。もう寝なあかん時でも、寝てたらモッタイナイ！言うてね。
そして、途中で熱出すんですよ。「今日はホテルで 1 日じっとしてます。」
そういう時に限って、これまた、ええ所に行きますねん。ほんまに。

その人の場合は脱水症状。中東なので暑い。乾燥してる。汗かいてもダラダラしない。
吹き出した汗がすぐに蒸発するので、水分抜けている自覚がないまま、「こまめに水飲みなさい」と言われていたのに飲まなかったので脱水になってしまった。
一旦脱水になると水を飲んでも戻します。食べ物の臭いを嗅いだだけで吐いてしまいます。
そして外国の女性の方、香水の量って半端ないじゃないですか。多分シュッシュッ、ピッピッじゃないと思う。バケツでかぶったんか！そこまでいけへんと思うけど。ちょっときつすぎる。
その香水の匂いでもブワッ。気持ち悪い。

「もう病院行くか？」と言った時思い出しました。海外旅行に必ず持って行くタイガーパーム。
これは樟脳（しょうのう）・メントール・ハッカ油など、スッとする系の植物の実の搾ったやつをブレンドしてる。これを彼の鼻先に「ちょっと嗅いでみ。」スーッと吸い込むや否や「あ～、気持ちいい。」
それを彼に渡しました。しょっちゅう鼻の所につけてるから、そこだけトナカイみたいに赤く変色して。

何も受け付けられない時、良い香りはアロマですよね。つっかえているものがスッと溶けて行くような。
天の神にとって、信仰者の祈りはかぐわしい良い香りを放つ香のようなもの。

「すべての聖徒たちの祈りに添えて、たくさんの香を持っていた」と書いてあるので、文字通り全ての聖徒たちと捉えると、患難時代に信じたクリスチャン以外にも、全ての聖徒たちが皆共通して願っている祈りとは再臨です。
いつの時代の信仰者たちも、何を願っているかというとキリストの地上再臨。
「早くこの悪の支配を終わらせてください。」「早く正義と公正を実現なさってください。」
「早くメシア的王国をもたらしてください。」

その聖徒たちの中でも、特に 7 章に出て来たのは殉教者たちなんですね。
殉教者たちの祈りに、たくさんの香をブレンドしたものが神の御前に立ち上った。

恐らく、たくさんの香というのはイエス･キリストの執り成しの祈りの事だと思います。

ちょっとクリスチャン向けの話になってしまうのですが。
クリスチャンが神に祈っても、もしかしたらピント外れの祈りの時があるかもしれない。
また、本来なら祈るべきではないような事を、口にしている可能性もないわけではない。
でも､それがかぐわしい香りになるのは､私から出た祈りだけが神の前に立ち上っているのではなくて、クリスチャンの祈りを執り成すイエス･キリストの祈りが大量の香となってブレンドされている。
だから私の唇から出た時には、その祈りは不完全かもしれないけど、神の耳に・神の嗅覚に届いた時には、実に素晴らしい祈りに変えられているんです。
それを考えると、祈る事について勇気が与えられると思うんですね。
特にここでは聖徒たち、非常に酷い殺され方で殉教した人たちの祈りが立ち上った。

黙示録 8:5
それから御使いは、その香炉を取り、それを祭壇の火で満たしてから地に投げつけた。
すると、雷鳴と声がとどろき、稲妻がひらめき、地震が起こった。
これは 2 回目の地震です。ここから 7 つのラッパが吹き鳴らされて行きます。

2. 第 1 のラッパから第 4 のラッパの災害は一体どんなものか。
今日は 1 番目から 4 番目のラッパの説明をしますが、その前に前提として、どんな時代かをもう 1 度確認します。

この時代は、最もたくさんの人たちが殺され殉教している時代です。
どれくらいかというと､「誰も数えきれないほどの人々が天の祭壇の前に立っているのを見た」と前々回見ましたね。（黙示録 7:9）

黙示録の中でカウントされている数字の中で、1 番大きい数字は 2 億です。
2 億までは具体的数字としてカウントされているのに、誰も数えきれないほどというのは、少なくとも 2 億以上ですよ。つまり、億単位の人間が患難時代の前半で命を落としています。
このおびただしい数の人間を迫害して殺しているのは、一体誰でしょうか？反キリストでしょうか？
違うんですね。反キリストが本格的に迫害を始めるのは“後半の 3 年半”。

“前半”に本物のクリスチャンたちを迫害するのは“世界統一宗教”です。
やがて本物のクリスチャンは患難時代の前に携挙されますが、地上に残った偽キリスト教をはじめ、あらゆる宗教が 1 つになる。
そして世界統一宗教が、そこに加わらない者たちを大迫害する。
これは後で黙示録に出て来ます。今はそれを見る事はできませんが、そう書いてあるんですね。

つまり､本物の信仰者を殺すのは宗教家。宗教組織ほど､本物の信仰者を迫害して来た組織はありません。
多くの本物の信仰者たちは、神の名によって命を落として来たんです。
異端とか様々なレッテルを貼られたりして酷い目に遭って来ました。
これは今までの歴史もそうですが、この時はその比ではないという事です。
人々が互いに愛し合う平和な時代に天から裁きが来たのではなく､人類史上最も醜悪な異常な時代。

かつてないほどの悪が溢れ返っている時代にラッパの裁きが下る。

1）黙示録 8:6-7
6. また、七つのラッパを持った七人の御使いたちは、ラッパを吹く用意をした。
7. 第一の御使いがラッパを吹いた。すると、血の混じった雹と火が現れて、地に投げ込まれた。
そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。

第 1 のラッパの裁きは植物界が 1/3 滅亡するという裁き。その原因は血の混じった雹と火。
氷の塊である雹と火の混合物が天から降って来て、植物界 1/3 を直撃し、それが焼き尽くされて滅びてしまう。

ところで聖書を見ると、今から 3500 年前、雹と火が降り注いで大ダメージを受ける国の話が出て来ます。
それはエジプト。3500 年前、約 300 万人とも言われるユダヤ人がエジプトで奴隷状態でした。
奴隷状態から解放されたユダヤ人たちを約束の地に連れて行くという任務のために、神によって立てられたリーダーがモーセです。
そして行こうとするけど、当時のエジプトの王ファラオが断固として行かせない。ただの労働力だから。
ユダヤ人を行かせてはならないとあらゆる反抗をしますが、承服しないファラオに対して、神は 10 個の災害を下して行くんですね。その 7 番目が雹と火の災害なんですよ。

出エジプト記 9:23-25
23. モーセが杖を天に向けて伸ばすと、主は雷と雹を送ったので、火が地に向かって走った。
こうして主はエジプトの地に雹を降らせた。
24. 雹が降り、火が雹のただ中をひらめき渡った。それは、エジプトの地で国が始まって以来どこにもなかったような、きわめて激しいものであった。
25. 雹はエジプト全土にわたって、人から家畜に至るまで、野にいるすべてのものを打った。
またその雹は、あらゆる野の草も打った。野の木もことごとく打ち砕いた。

エジプトの地で国が始まって以来どこにもなかった(24)
3500 年前の当時のエジプトは、文字によって歴史文書を残す事ができるいくつかの国の 1 つで、最も歴史の長い国の 1 つです。日本はまだ存在してません。
最も歴史の長いエジプトで国が始まって以来どこにもなかった事が起こった。
すなわち、人類史上初めての非常に不思議な事が起こった。
氷の塊の雹が火と一緒に入って来てエジプトに下ったため、それに当たった者は次々に倒れ、野の草は焼けて滅びてしまったのです。これが 7 番目の災害です。

出エジプト記 9:20
ファラオの家臣たちのうちで主のことばを恐れた者は、しもべたちと家畜を家に避難させた。
エジプトの全員がその被害を受けたのではないんです。6回目の災害まで言った通りになっているので、「イスラエルの神は本物の神だ」と悟るエジプト人が出て来ているんですね。

これを念頭に置いて、もう 1 度黙示録 8 章。
7. 第一の御使いがラッパを吹いた。すると、血の混じった雹と火が現れて、地に投げ込まれた。
そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。

第１のラッパの雹と火による青草の延焼は、その前の６つの封印の災害を足すと７番目の災害です。
１番目から６番目までの災害があって、第７の封印を解いたら第１のラッパが出て来たから、７番目の災害が雹と火による災害。そして先程言ったように、出エジプトで10個の裁きの７番目が雹と火。

恐らくこの時代に生きている人たちは、初めは殉教者を追い詰める側であっても、殉教して行く人たちから「次に起こる事は雹が降ります。なぜなら黙示録に書いてあるから」と聞くと思います。
そして、聞いた事がそのまま実現して行くのを経験する事によって、その中の心ある者たちは考えを変えるんじゃありませんか？

なぜ裁きがあるのか？考えを変えるチャンスを与えるためなんです。
一方的な問答無用の裁きというよりも、裁きの下し方の中に、「気がついて欲しい」という神の願いが込められているように思うんですね。

2）黙示録 8:8-9
8.第二の御使いがラッパを吹いた。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血になった。
9.また、海の中にいる被造物で、いのちのあるものの三分の一が死に、船の三分の一が壊された。

２番目は海洋生物・海洋圏に対する裁きです。
8節の火の燃えている大きな山のようなもの。
日本で山を描いたら、子供たちは大抵緑塗るんじゃないですか？日本はどこでも緑が生い茂っています。
中東で山を描くと、みな茶色です。特に大きな山…、オリーブ山は丘です。あれは。
ホンマにごっつい山は、南の方に行けば行くほど荒野にあるんですね。
荒野の山は土が盛り上がっているというよりも、海底が隆起して出来た岩の塊。
だから、イスラエルで“山”というと大きな岩のようなもの。
大きな岩のようなものが天から地球に突入して来たら、空気の摩擦で燃えますね。
これは恐らく、超自然的な隕石だと思います。

地球は隕石から守られています。なぜ守られているか２つの理由があります。
１つは大気圏。地球から見て１番近い星は月ですが、月は毎月毎月１か月に250個のクレーターが出来てます。毎月１か月間250発の隕石がぶつかっているんですね。その度に穴が開く。
なんでぶつかるのか？到着する度に燃やし尽くしてくれる大気圏がないから。
だけど地球にはそれがあるから、途中で燃え尽きて、地面に到着するのは極々わずかしかない。

もう１つは太陽系の構造。太陽系は太陽を中心に水金地火木土天海。冥王星は今外れてる。
ぐるぐる回っている太陽系メンバーの中で、太陽を除いて最も重量が重く大きいのは木星。
２番目に大きいのは土星。地球をゴルフボールくらいとすれば、木星はバランスボールくらい。
土星はビーチボールくらいと言われてるんですね。

そして太陽系の星は不思議な事に、太陽を回る時それぞれの公転スピードで回るけど、実は地球の周りを流星・彗星・隕石群・小惑星がビュンビュン飛んでるんです。
だけど、それらの流星群が地球に最も近づくタイミングの時に、木星と土星が地球に１番近づく。
そうすると重力の法則で、重い星は地球に向かって飛んで行く流星群を自分に引きつけるので、地球に

は小惑星はぶつからないようになっている。というか、そのようにされているとしか言いようがない。
宇宙というのは、人間が生きて行くのに非常に都合よく動いている事が分かります。

今は恵みの時代ですが、患難時代になると自然環境が大きく変わります。
そして、恐らく超自然的な事だと思いますが、その大きな山のようなものが入って来て、海に命中して海が変色し、海洋生物の 1/3 が絶滅し、船の 1/3 が破壊されてしまった。だから世界経済も大ダメージ。
日本の輸出入貿易の運搬手段の 99.4%は船です。航空便は 0.6%。
スピードはないけど単価が安いので船なんですね。その 1/3 が破壊されてしまった。

3）黙示録 8:10-11
10. 第三の御使いがラッパを吹いた。すると、天から、たいまつのように燃えている大きな星が落ちて来て、川の三分の一とその水源の上に落ちた。
11. この星の名は「苦よもぎ」と呼ばれ、水の三分の一は苦よもぎのようになった。
水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。

水が毒で侵されて毒水となったため、それを飲料水にした人たちがバタバタと倒れた。
天から、たいまつのように燃えている大きな星が落ちて来たからそうなったんですが、星をどう解釈するかなんですよね。

この『黙示録シリーズ』で申し上げていますように、聖書の解釈は字義通りに読む事が大事です。
“イスラエル”と書いてあるならイスラエルを意味します。教会の事だと解釈したらダメです。
“14 万 4 千人”と書いてあるなら 14 万 4 千人です。
基本的には、書いてある通りに解釈するのが良いのです。

では、苦よもぎと呼ばれている星はどう意味か？聖書で星には 2 つの意味があります。
①天体。文字通り、小惑星のような物が落ちて来た。
②たとえで語っている場合は例外なく天使。良い天使も悪い天使も含めて。
御使いも悪霊になった堕落した天使（堕天使）も含めて。
この星が水源地に落ちたので、川の 1/3 が毒水になってしまった。

①でも②でも結果は同じですが非常に難しい。
だけど、もし天体とした場合は、ちょっと解釈が難しくなる可能性があります。
というのは、この星は単数形なんです。すなわち 1 個の星が落ちた。
世界中の水源地が 3 か所しかなくて、その内の 1 か所に命中したので 1/3 ダメになった、というのなら分かりますが、世界にある川の水源地は 3 か所じゃないです。
世界中に、日本にも色んな大河・川があって、水源地は散らばっています。
1 個の星が命中したから全ての川の 1/3 がダメになる、というのは説明が難しいんじゃないかな。

ではもう 1 つは何か？この星の名。人格があるので名前が付けられたと考えると、今苦よもぎと呼ばれる悪霊のかしらが悪魔的な力で世界に災いをもたらした、と読めなくもない。

結果はどちらも同じなのでどちらでもいいです。私は決めてません。
しかし 1 つ言える事は、この時代は今よりもはるかにカルト的な、おかしな現象があるという事です。

時々「神様の声、聞いた事ありますか？」と聞かれるんですが、1回もありません。
「イエス･キリストの夢、見た事ありますか？」1回もないんです。
皆さんの夢はよく見るんですね。今朝もある方の夢を見て、汗びっしょりでした。
イエス･キリストの夢、見たい見たいと思いながら見れない。
心に1番かかっている事が夢に出て来るとか言われたら、ものすごい責められるんですけどね。
思ってんねんけど、中々見られへんわという感じがするんですが。
私はそういう不思議な経験は殆ど関係ないというか、見聞きした事はないのですが、福音書には悪霊に憑かれた人たちがやたら頻繁に登場するんです。
メシアが登場している時代の約束の国は、猛烈な悪魔の攻撃を受けていたのですね。
ですから、悪魔の終わりが近づいている時、何があってもおかしくない時代だと言えると思います。

4）黙示録 8:12-13
12. 第四の御使いがラッパを吹いた。すると太陽の三分の一と、月の三分の一、また星の三分の一が打たれたので、それらの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、夜も同じようになった。

これは、太陽と月と星が1/3欠けて壊れてしまった、という意味ではないと思います。
何かの原因で、天体と地球を挟んでいる大気圏のどこかで、光をさえぎり遮蔽するような現象が起きているように思います。
カーテンを引かれるとカーテン越しにしか光を見る事ができないように、地球の周りを何らかの闇が覆うために太陽・月・星の光が1/3弱くなった。

実は患難時代は4段階で暗くなって行きます。1回目がここ。4段階を経て最終的に漆黒の闇になる。
聖書で“暗闇”は“神の裁き”を表します。
イエス･キリストが十字架にかかった時、「12時から3時（15時）まで全地が暗くなった」と書いてありますが、その暗闇の時間帯に何が起こったのか？
全人類の罪の裁きがイエス･キリストの上に振り降ろされていたのです。

光がない・暗黒に包まれるというのは神の完全な裁きです。しかし真っ暗ではない。まだ1/3です。
1/3の暗さが、次回見ますがもっと暗くなり、もっともっと暗くなり、そして第5の鉢がぶちまけられた時、漆黒の闇になる。患難時代は暗い時代なんですね。
ここまでが4つの災いです。

13. また私は見た。そして、一羽の鷲が中天を飛びながら、大声でこう言うのを聞いた。
「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る。地上に住む者たちに。三人の御使いが吹こうとしている残りのラッパの音によって。」

今まで4つのラッパが吹き鳴らされ、あと3つ残っている。
5・6・7番目のラッパそれぞれ「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る」と言っていますが、ギリシア語では「オウアイ、オウアイ、オウアイ。」
「わざわいが来る」ではなく「わざわい、わざわい、わざわい。」
今までの4つだけでも恐るべき事です。しかし、より恐るべき事が次の3つでやって来る。

誰に？地上に住む者たちに。この時、地上で権力を持っているのは世界統一宗教です。

「世界統一宗教や反キリストが支配する世界を自分の根城として構える」と決心している者たちにそれが来る。

さて結論です。裁きの事を語って来ましたが、患難時代は地上から悪を一掃するための期間。
と同時に、人を悔い改めに導こうとする神の努力が顕著に表れている時代でもある。
その根拠を 3 つ挙げたいと思います。

① ラッパの裁きは 6 段階。7 番目に鉢。
もし人類を滅ぼす事が神の望みなら、6 段階を経るのではなく、1 度に全部振り下ろす事ができたはず。
しかしそうではなく、ある意味小出しというか段階を踏んでいるんですね。
どうして、一気に全ての裁きをなさらないのか？

悔い改める機会と、期間と、聖書の言葉の真実さを判断する判断材料を、目で見える世界を通して語っておられるからだと思うんです。
今自分の目の前に展開している事は、読もうと思ったら読む事ができる聖書に、全部書いてある通りに進んで行っている。それを通して、「悔い改めてほしい。聖書の言葉は真実である」というメッセージを語っておられるのだと思います。

② 7 つの裁きのうち、最初の 4 つのラッパは全て環境…植物圏・海洋圏・水源・天文界への裁きです。
人間には直接下ってないんですね。人間が住んでいる環境に下っている裁き。
ここに、考える機会と受け入れるチャンスを与えて人を導こう、とされる意図が見えるのではないかと思います。

③ 光がちょっとずつ減って行く。
ダイヤモンド加工やガラス工芸美術が発達する国は、例外なしに日照時間が少ない国です。
赤道直下の太陽ギラギラの所で、小さな光を喜ぶという文化はあまり発達しません。
冬になると日照時間がすごく短くなって、わずかな光をいろんな方法で喜んだり楽しんだりする。
光が少なければ少ないほど、光に対する憧れが強くなりますね。
光が少しずつ減って行くのは光を求めさせるためだ、とも言えると思うんです。

ただ単に裁きというのではなく、何とかして創造主を求めさせるためのメッセージでもあるのではないかと思います。

最後に 1 つお話して終えます。
南太平洋のど真ん中にクック諸島があります。クックという人が発見したからクック諸島。
ニュージーランドから 2 千キロくらい東にある南太平洋絶海の島々で、非常に珍しい海洋生物がたくさん生息していると言われています。
ある女性海洋学者がそこで酸素ボンベ・シュノーケル着けて、海洋観察のための遊泳をしていました。

スキューバダイビングは、1 度やると病みつきになってやめられへんと言われていますね。
私も昔ハワイのオアフ…ではなくて、もっとキレイなナントカ…という島で、シュノーケル・水中眼鏡を借りて見たら、もう熱帯魚が触れるんですね。泳がなくていい。プカッと浮いてるだけでいい。
で、ふっと目を上げてみたら、岸が 1 キロくらい離れてるんですよ。知らん間に流されている。

こうやって遭難するんですね。えらいこっちゃと。見とれているうちに、ついつい沖に行った事を覚えています。

ハワイの観光地でもそうなら、南太平洋のど真ん中の何にもない所、そこには海洋学者が垂涎の的（すいぜんのまと）の不思議なものがたくさんある。
それを観察し撮影していたら、突然ブワーッと、波というか水圧が下から来て、跳ね上げられるような衝撃を受けたかと思うと、重さ 2 トン以上のザトウクジラ（＊欄外参照）が彼女の前に現れて、ヒレで彼女を挟んだんですって。ものすごい力。なんとか逃れようとキックする。はねのけようとする。
だけど、重さ 2 トンのザトウクジラにビターっと持たれたら、もうどうにも出来ない。
そして、深海に向かってグーッと連れ込まれる。もがいてももがいても、どうする事も出来ない。
万事休すと諦めた時、また上に上がって旋回して、そっとヒレを離してくれた。
「助かった！」と思ってふと見ると、イタチザメが遠ざかって行く姿を見たんです。

イタチザメ、英語名はタイガーシャーク。人食いサメです。サメ科の中で 1 番でかい。
イタチザメ言うたらイタチを連想するからネーミング良くない。
もう何でも食べる。産業廃棄物でも食べるそうです。だから、ある海洋学者は“ヒレの付いたゴミ箱”と呼んでいる。人間だって情け容赦なく食べてしまう。
そのタイガーシャークが去って行くのを見た時、彼女が言うには「私はザトウクジラに守ってもらった。」
ザトウクジラのヒレに抱えられた時、攻撃されている・酷い目に遭っている・困難が来たと思ったけど、もっと致命的な結末に至らないために守ってくれたんではないかと。

患難時代、悪を一掃するために裁きは下るけれど、究極の悲惨な結末に至らないために・本当の避け所はナザレのイエスにしかないぞという事を分からせるために、その裁きの中でもチャンスを与え続けておられるのです。

今の時代は患難時代じゃない。恵みの時代です。
この恵みの時代に、創造主が私たちに 1 番望んでいるのは、悔い改めて神の前に立ち返る事なのです。
Ｉテモテ 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

8 章で 4 つのラッパの裁きが終わりました。いよいよ“前半の後半”の部分に入ります。
非常に解釈が難しいところですが、分かり出すと聖書全体が見えて来るところです。
皆さん、ぜひ続けてお越しください。そして、今日聞いた中でご質問等あれば、周りのクリスチャンに聞いてみてください。分かる範囲で答えてくれると思いますので。
ぜひ創造主の前に探究し、返ってくださいますように、心からお勧めして終えたいと思います。
^^ ^^

＊ザトウクジラは標準的な個体で 30 トンと言われています。
　実話リンク：クック諸島の海で起きた実話（動画付）
「サメから襲われていたのを、クジラがそっと守ってくれたの」
　https://www.youtube.com/watch?v=9YZYQT8bvS8&feature=emb_title

＊動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
＊ラジオ番組「聖書と福音」（約 15 分）も是非どうぞ。YouTube もあります。
＊YouTube「ごうちゃんねる」（約 10 分）もぜひ見てください。　　動画筆記：Rumi